

中高一貫教育校 施設整備に係る説明会
平成23年12月15日（木）

札幌市教育委員会生涯学習部計画課

校舎の配置計画について

開成高校の敷地周辺



校舎配置の基本的な考え方

- 学習環境の充実
 - ⇒校舎ゾーニング、グラウンドの規模確保。
- 敷地周辺的环境に配慮
 - ⇒連続する日影（法的日影）は、校地内または道路内におさめる。
 - ⇒環境の変化を極力与えない。
- 体育館は既存を再利用する
 - ⇒体育館は平成3年に建替えしている。
 - ⇒渡り廊下は現況と同じ位置に接続する。

現況建物の配置



【校舎棟】鉄筋コンクリート造3階建て
・昭和38年建設、以降4回の増築を経ている。

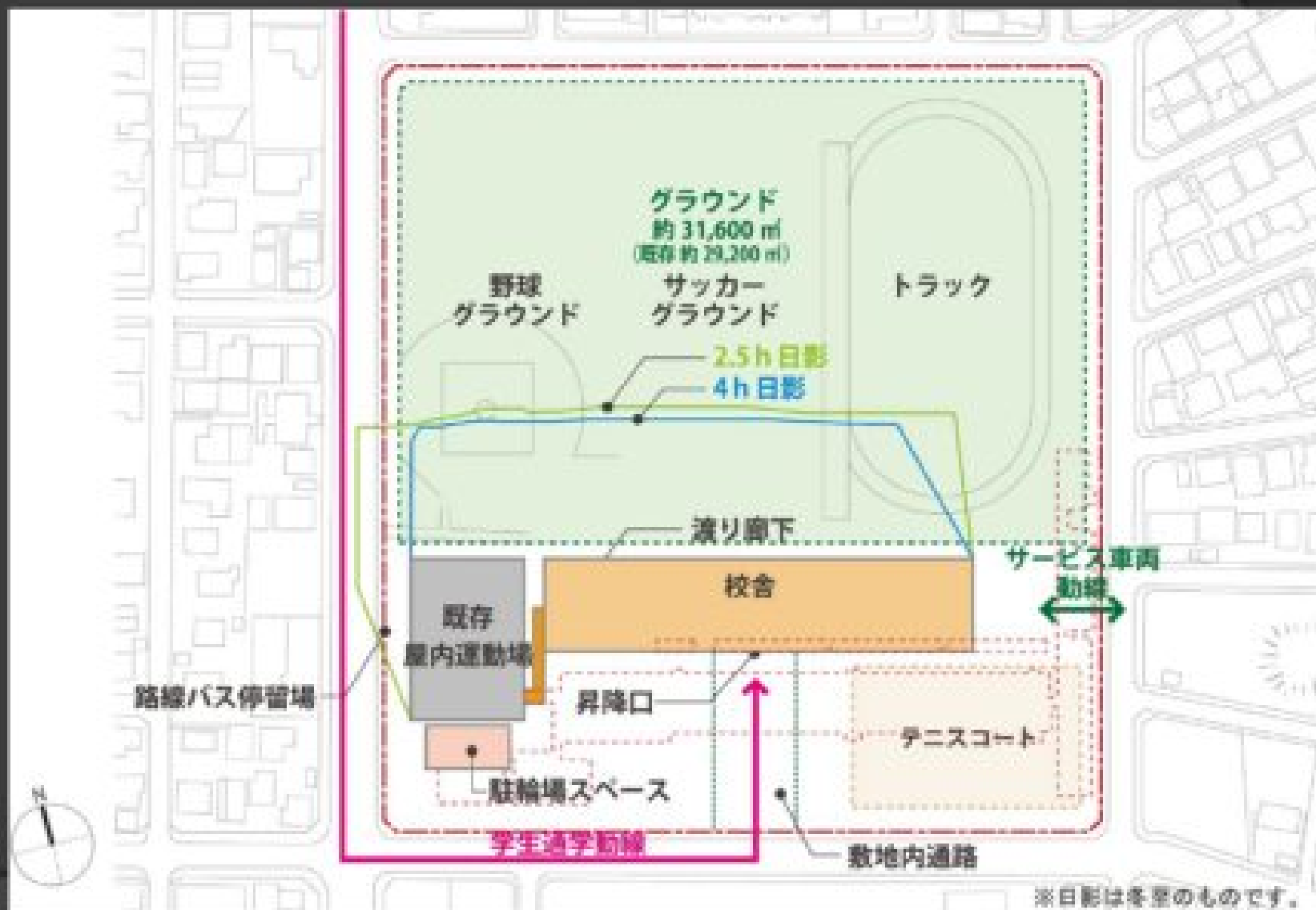
【武道場】鉄骨造平屋建て
・昭和47年建設

【屋内運動場】鉄骨鉄筋コンクリート造3階建て
・平成3年建設（建替え）

校舎配置 (A)案 →新校舎中央配置

- 仮設校舎無し
 - ⇒生徒の負担を軽減
- 周辺に対し圧迫感を与えない
 - ⇒日影の影響は無い
- グラウンドは現状以上の大きさを確保
 - ⇒テニスコートは敷地南側へ移動
- 中廊下型の校舎
 - ⇒校舎平面バリエーションが少ない
 - ⇒高層化による上下移動の負担増、閉鎖的な空間構成になりやすい

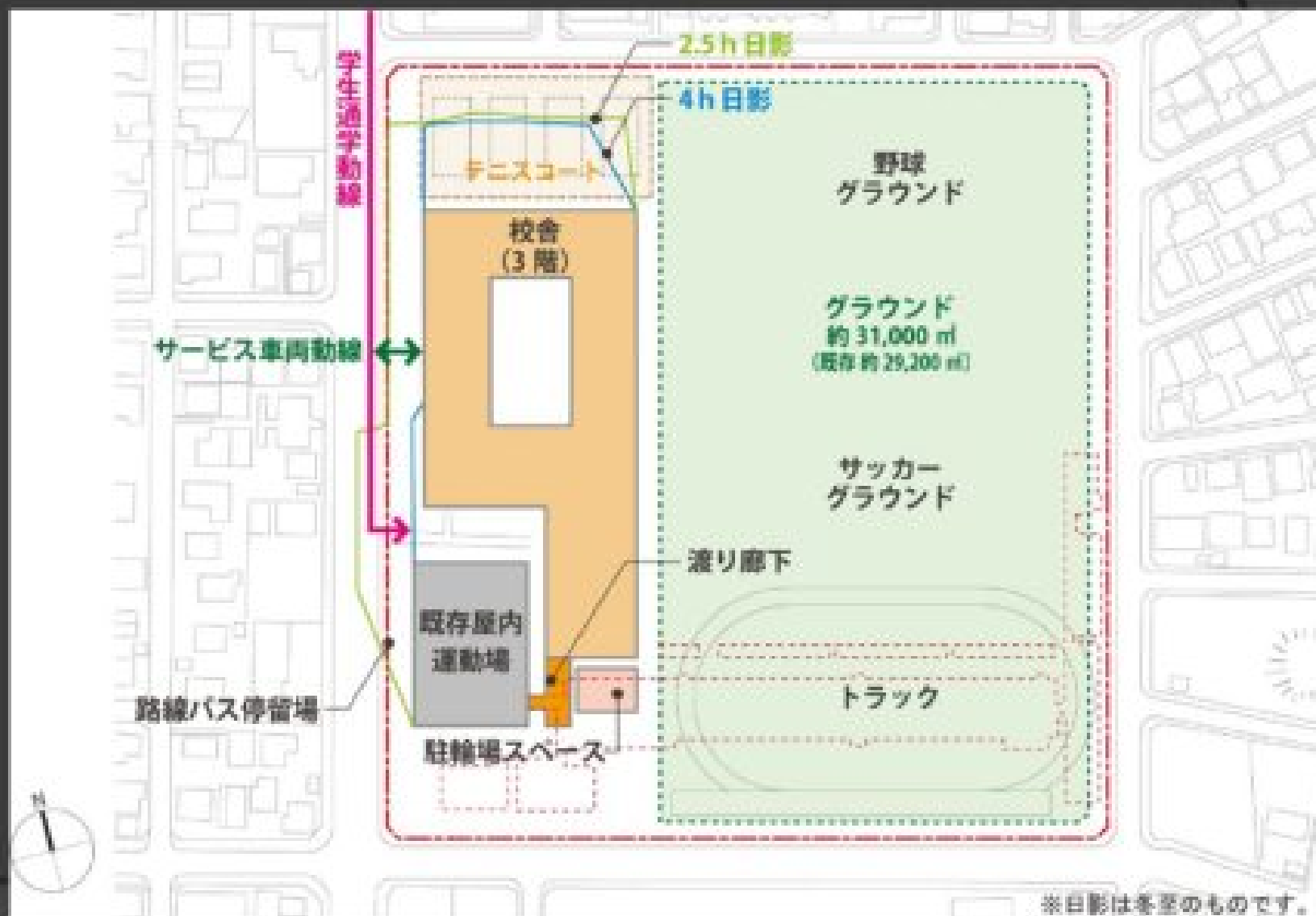
校舎配置 (A)案 → 新校舎中央配置



校舎配置 (B)案 →新校舎西側配置

- 仮設校舎無し
 - ⇒生徒の負担を軽減
- 周辺に対し圧迫感を与えない
 - ⇒建築できる範囲が大きく、低層化を図ることができるため、日影の影響は無い。
- グラウンドは現状以上の大きさを確保
 - ⇒テニスコートは敷地北側へ移動
- 中庭（回廊）型の校舎
 - ⇒校舎平面のバリエーションが多い
 - ⇒開放的な空間構成を創出できる

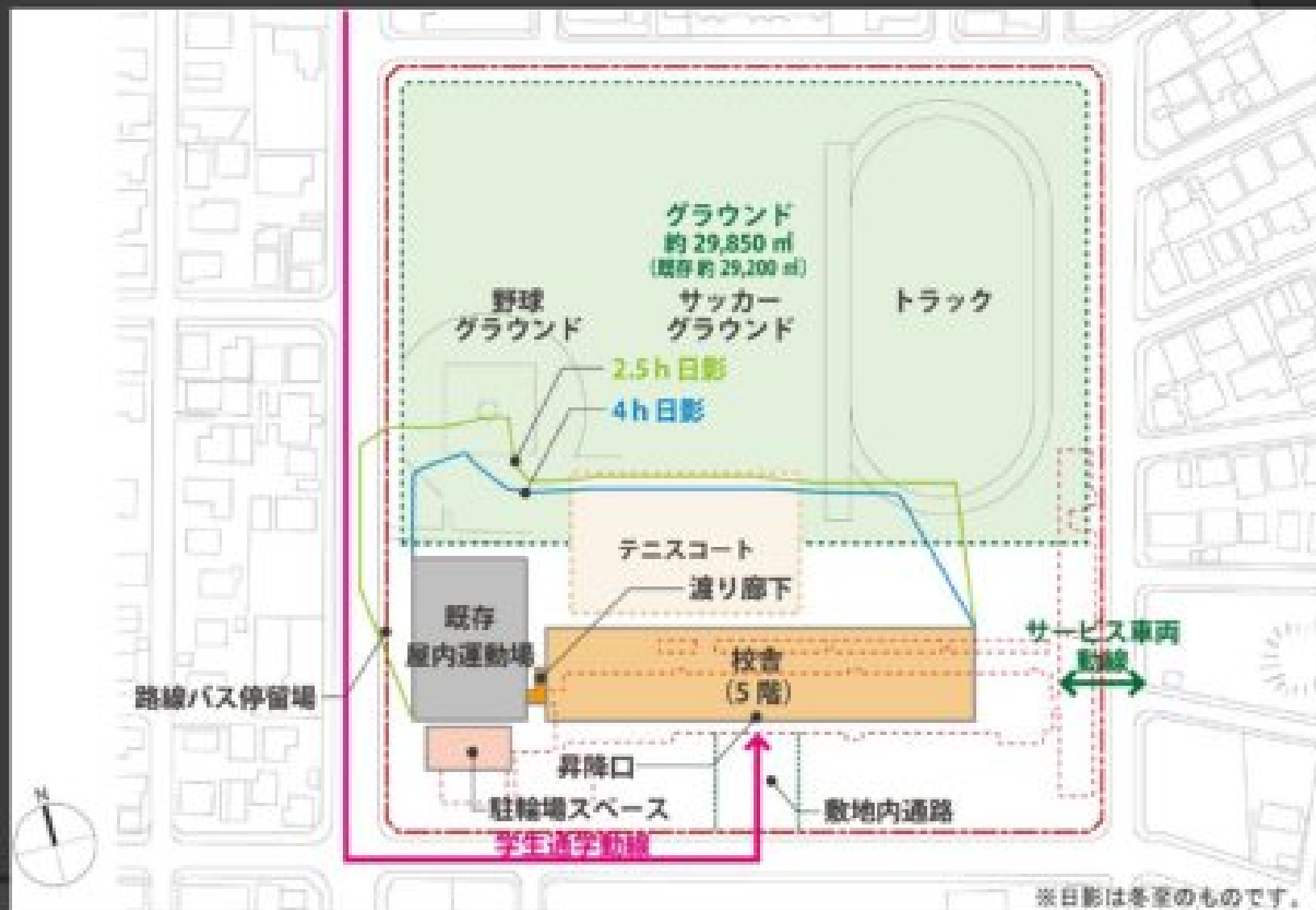
校舎配置 (B)案 → 新校舎西側配置



校舎配置 (C)案 →現校舎位置に配置

- 仮設校舎有り
 - ⇒生徒の負担が大きい
- 周辺に対し圧迫感を与えない
 - ⇒今と同じ位置なので、環境の変化は無い
- グラウンドは現状と同程度の大きさを確保
 - ⇒現状と同じ配置
- 中廊下型の校舎
 - ⇒校舎平面のバリエーションが少ない
 - ⇒高層化による上下移動の負担増、閉鎖的な空間構成になりやすい

校舎配置 (C)案 → 現校舎位置に配置



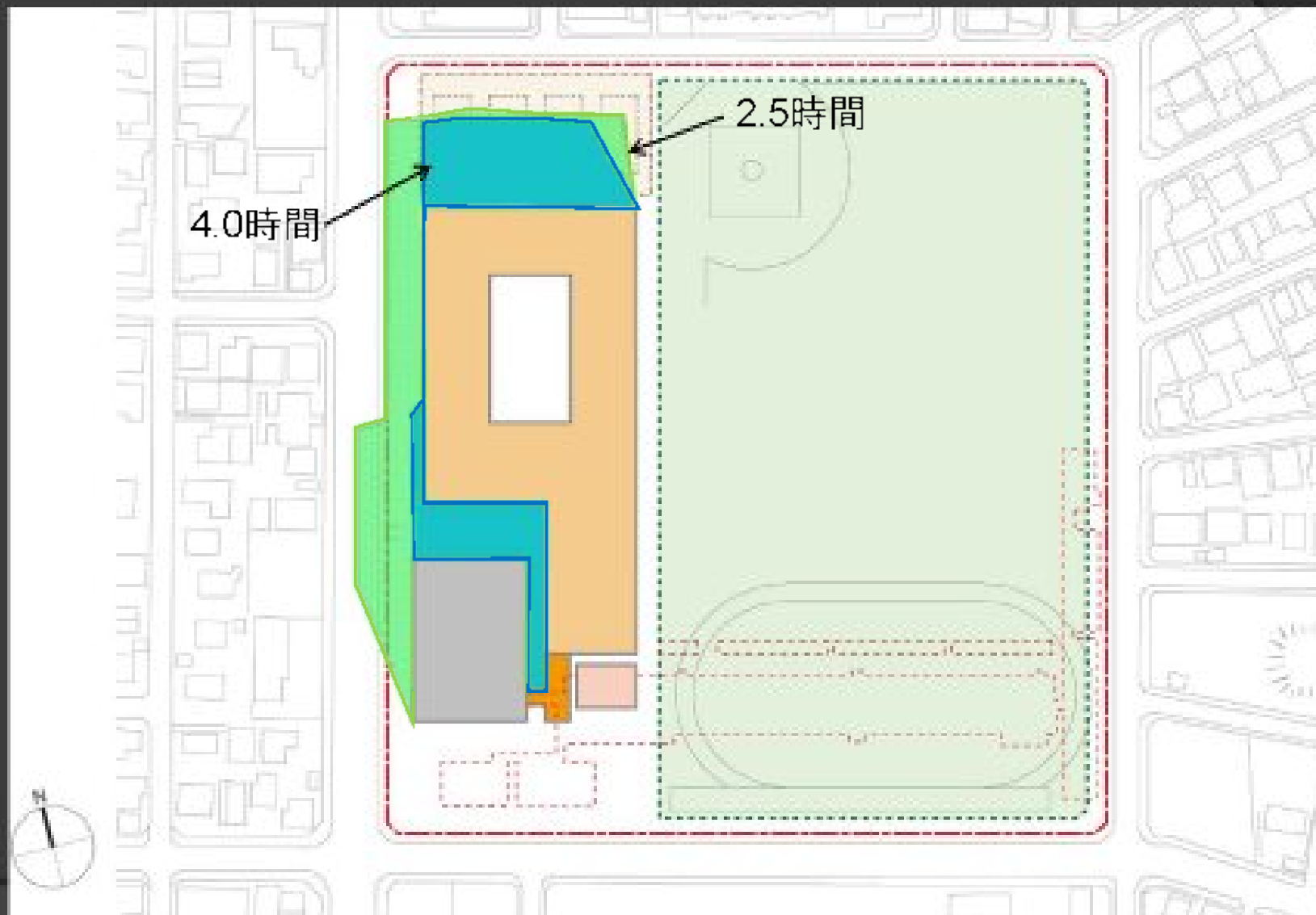
3案を比較検討

- 学習環境の向上→教科教室型の特性を生かす
- 快適な学習空間→グラウンドの適正配置
- 敷地周辺に配慮→日影、圧迫感を軽減
- 開成高校の生徒の負担軽減→仮設校舎の要否

3案を比較検討

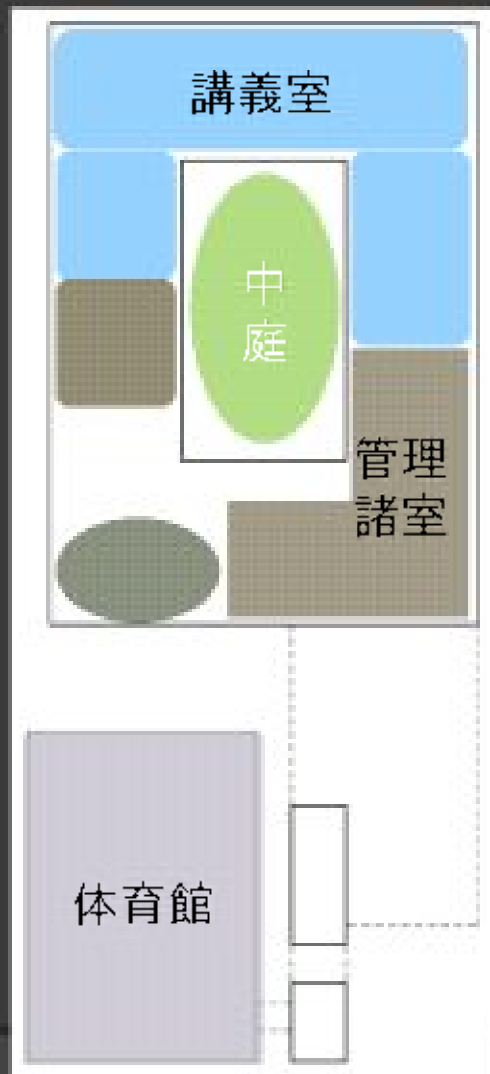


周辺敷地に対する日影について



各階平面のゾーニングイメージについて

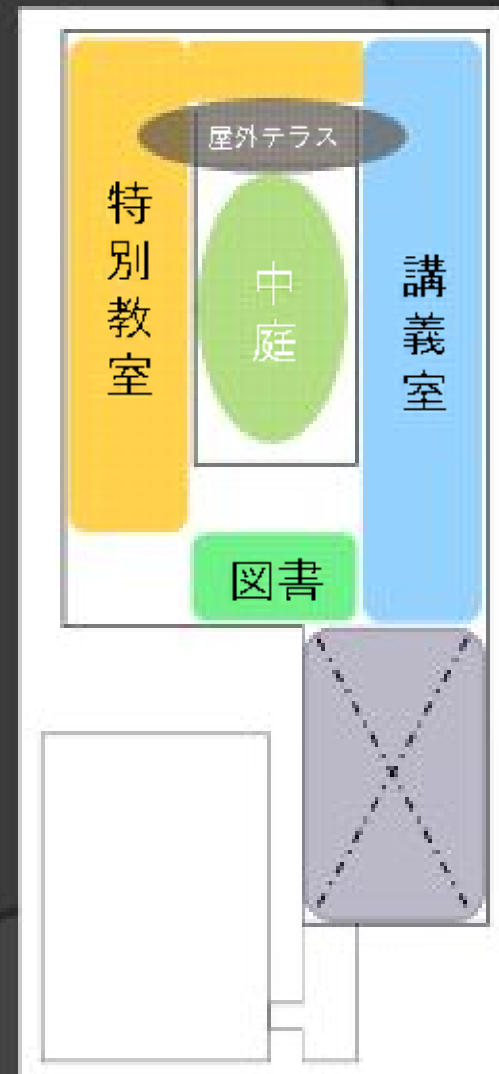
1階



2階



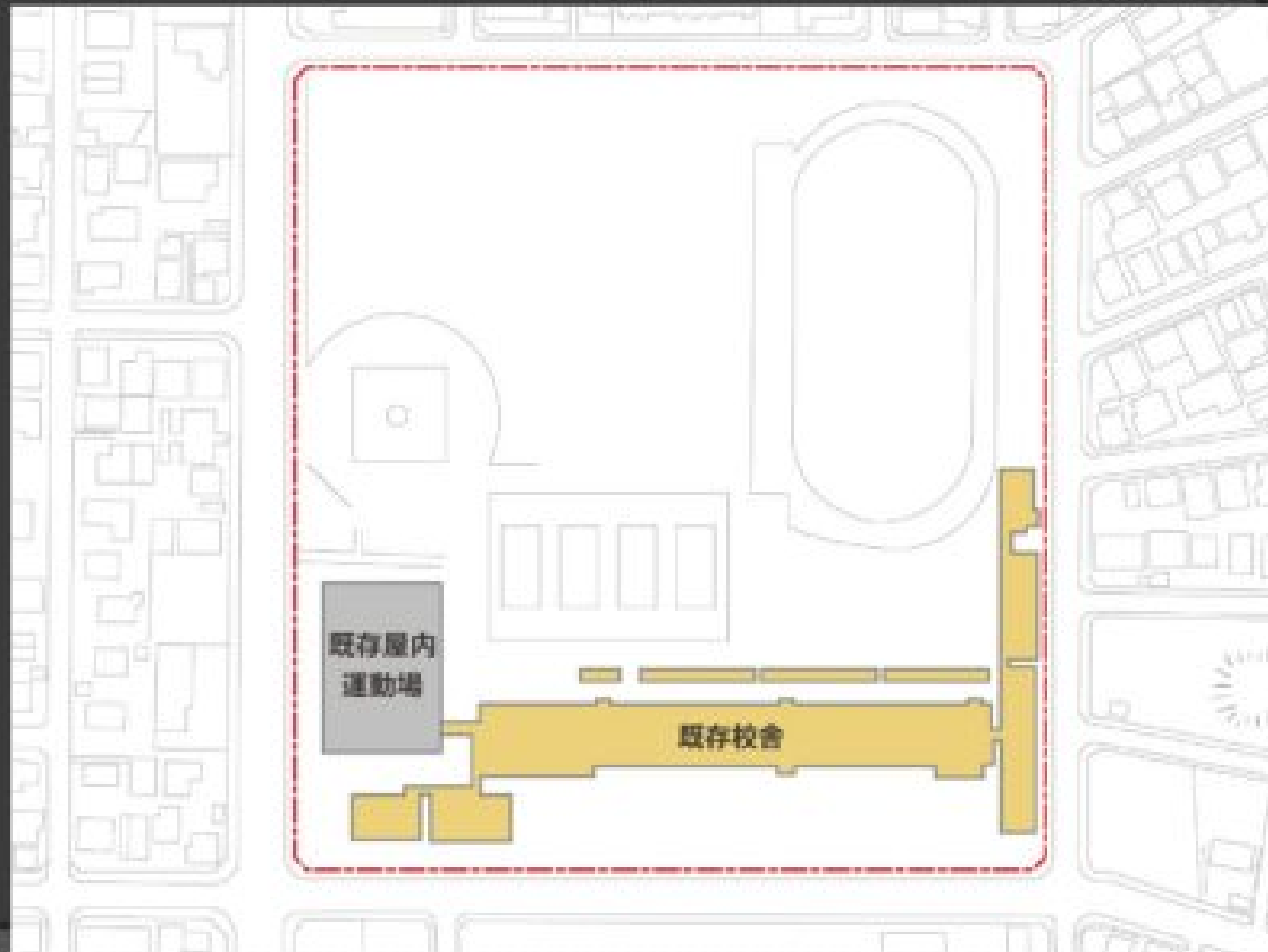
3階



事業スケジュールについて

- 平成24年5月～平成25年3月
⇒実施設計、地質調査
- 平成25年6月～平成26年7月
⇒新校舎建設（26年夏休みに新校舎へ引越し）
- 平成26年8月～平成27年2月
⇒旧校舎解体、テニスコート及び野球場の整備
- 平成27年5月～平成28年2月
⇒渡り廊下建設、外構工事、サッカー及び陸上競技場の整備

平成25年6月までは工事は行いません



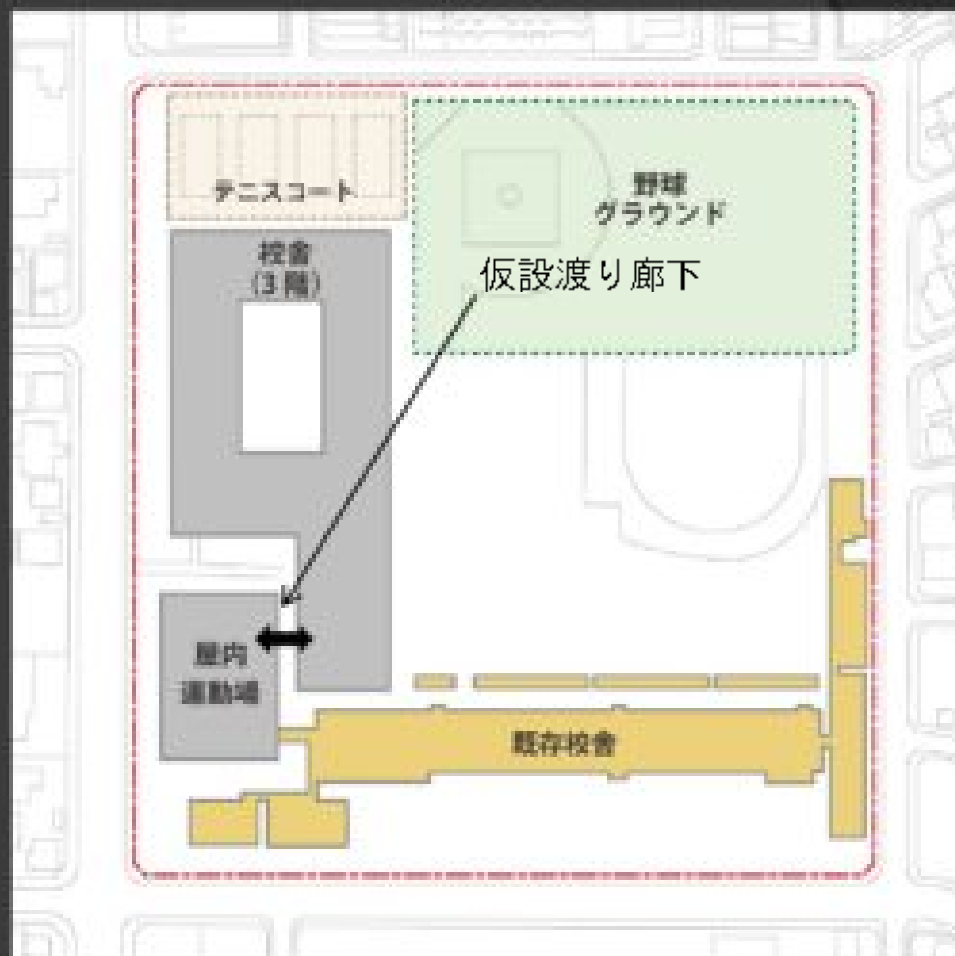
平成25年6月～平成26年7月まで

- 新校舎建設
授業等は既存校舎で行う
陸上競技場、テニスコート（2面）は利用可能
生徒動線と工事車両動線は分離



平成26年8月～平成27年1月

- ◎ 新校舎完成
- ◎ 引越し後、既存校舎解体する
- ◎ 仮設の渡り廊下を設置し、屋内運動場へ行き来できるようにする
- ◎ テニスコート、野球場を整備する



平成27年5月～平成28年1月

- 平成27年4月
中高一貫校開校
- 渡り廊下の建設
- 駐輪場ほか、外構を整備する
- サッカーグラウンド、陸上競技場を整備する



今後のスケジュールについて

- 平面計画の提示（平成24年3月頃）
⇒具体的に内部の教室レイアウトの説明
- 建設工事の説明会（平成25年6月頃）
⇒工事車両ルートや作業時間についての説明